

地域を元気にする農福連携！

JA共済総合研究所主任研究員/

日本農福連携協会顧問

濱田健司

農福連携とは

身体障害者、知的障害者、精神障害者が農業生産において就労する。

農業と福祉が連携する取組みをいう。

「農」は、農産物および加工・販売等

「福」は、生活困窮者、要介護高齢者等

※引用

濱田健司『農福連携の「里マチ」づくり』鹿島出版会

農福連携が広がる背景

○農業サイド

- ・後継者不足、担い手不足、耕作放棄地等拡大

○福祉サイド

- ・低就業率、低賃金

○農の福祉力

- ・「つくること」「食べること」「その場にいること」などにより「癒し」「健康づくり」等の効果を発揮する、人の心・気・体への作用。

事例

NPO法人ピアファームの取組み

全国動向

- 国・・・内閣府、農水省、厚労省
- 都道府県・・・農福連携全国都道府県ネットワーク
- 民間・・・日本農福連携協会（旧・全国農福連携推進協議会）
- メディア・・・新聞、テレビ、メディア

日本農福連携協会

（旧・全国農福連携推進協議会）

<運営>

- 農業団体、福祉団体、企業等の役職員
- 農水省、厚労省、農福連携全国都道府県ネットワーク

<会員>

- 障害福祉サービス事業所、農業生産者、地域協議会
- 長野県、岐阜県、京都府、宮崎県
- 長久手市、富士市
- 企業、個人

⇒農福連携に取り組む国、地方自治体、現場、企業、個人の繋がるプラットフォーム

農福連携の可能性

○農福+α連携

農福商工連携、農福介護連携、農福医療連携、
農福教育連携、農福観光連携、農福環境連携etc
⇒地域経済活性化、地域生活維持、環境保全など

○農生業(のうせいぎょう)

これまでの農はモノを提供
これからの農はモノおよびサービスを提供
⇒新しい農のカタチ=小農の価値創造

○「里マチ」・・・濱田健司『農福連携の「里マチ」づくり』鹿島出版会

- ①多様な人間が主体的にそれぞれの役割を果たせるマチ
- ②人間が自然と関わることで、自然も人間も共に豊かになるマチ

キョードー者

社会的に不利な立場にある人々＝「キョードー者」

障害者数……………937万人

要介護認定者数……640万人

生活保護受給者数…210万人

生活困窮者数……………？万人

ニート、引きこもり……？万人

そのほか…難病患者、難民、シングルマザー等

合計すると2000万人以上

農福連携と環境＝農福環境連携

○農地(耕作放棄地等)の保全

効果:土砂崩れ防止、洪水防止、水源涵養、食料自給

例)全国各地で既に実施

○森林(放置林等)の保全

効果:土砂崩れ防止、洪水防止、水源涵養、森林育成、木材自給

例)NEXTグリーン但馬、進和学園

○地域での新たな雇用創出

「里マチ」づくりへ

農福連携、農福+ α 連携により

○多様な人間が役割を果たし、笑顔になるマチ

○人間が豊かになり、自然も豊かになるマチ

⇒「里マチ」・・・それぞれの地域のカタチを創生！